

# 北京日本人学校における国際理解教育とその実践

前北京日本人学校 教諭

佐賀県唐津市立大志小学校 教諭 高 添 健 介

キーワード：北京，総合的な学習の時間，国際交流，自国理解，国際理解

## 1. はじめに

北京に赴任した3年間，縁あって，小学部6年を連続して受け持つことができた。その経験の中で，国語科や社会科などの学習を通して身につけた知識をさらに膨らませていく「総合的な学習の時間」に，強く興味を持って取り組んできた。

北京日本人学校に在籍する児童の生活の中には，中国をはじめ世界の国々から様々な考え方が入ってきており，日々の生活はすでに国際化していた。しかし，児童が自国の歴史や文化について，知っていることはまだ少なかった。そこで，まず海外に住んでいる児童に，自国の歴史や文化について調べさせ，その上で他国文化と比較させることで，文化や生活習慣の多様性に気づかせていきたいと考えた。そして，このような自国及び他国の文化を知る活動に取り組ませることにより，その違いに気づき，改めて自国のよさに目を向け，愛着を持ってほしいと願った。以上の点は，海外で生活している者だからこそ，自己を形成していく時や国際社会で生きていく時に大切な基盤になると考えた。

このような考えのもと，単元開発を行い北京日本人学校に在籍した3年間の中で，毎年修正を加えながら実践に取り組んできた。以下に述べるのは，3年目の実践である。

## 2. テーマと研究仮説

### (1) テーマ

互いに自分の思いや考えを伝えあう子 ～意欲的に他者との交流を図ろうとする場の設定～

### (2) 研究仮説

意欲的に他者との交流を図ろうとする場を設定し，その手立てを工夫すれば，自分の思いや考えを伝える力を身につけることができる。

## 3. 指導の手立て

### 〈手立て1〉 相手意識を持たせる

- ・学習を始める際に，誰に伝えるのか『相手』を意識させる。

### 〈手立て2〉 話型の提示

- ・発信する側，受け取る側の両面から考えられる『図』を室内に掲示する。
- ・発表するときだけでなく，聞くときにも『図』を意識させるようにする。

### 〈手立て3〉 発信方法の工夫

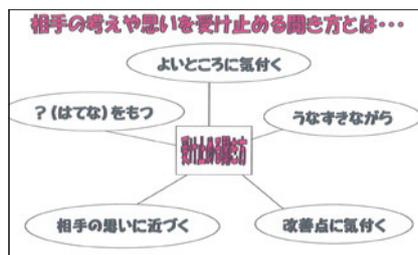
- ・模造紙を使ったまとめ活動。
- ・プレゼンテーションソフトを使ったまとめ活動。
- ・話したい内容を事前にワークシートに書かせ，発信の練習をさせる。

### 〈手立て4〉 振り返り活動の充実

- ・受け取るだけでなく，さらにその感想を持たせるようにする。



提示の『図』



#### 4. 具体的な実践内容

##### (1) 総合的な学習の時間（韓国国際学校との交流6月・11月）

###### ①ねらい

- ・同じ中国に住む外国人同士として、交流を行い、互いの国への理解を深める。
- ・自国についての紹介をし、自分たちが知ったことを更に外へ発信する。

###### ②年間活動計画

月	内 容
5	JSBアンケート実施 日本を紹介したもののグループ分け 第1回交流会（韓国国際学校）
6～7	大地の時間に日本を紹介したいものごとに調べ学習を行う
9～10	発表内容をまとめる
11	第2回交流会（韓国国際学校） 事後アンケート
12末	最終アンケート まとめ
3	日本国内の小学校との交流（発信）

###### ③実施計画

###### (a) 6月の交流

- ・日時 平成25年6月4日（火）8：30～13：00
- ・場所 韓国国際学校（体育館・教室）

###### (b) 11月の交流

- ・日時 平成25年11月15日（金）9：40～12：00
- ・場所 北京日本人学校（体育館・6年教室・家庭科室）
- ・当日までの活動  
質問したい内容を考えて送る，質問ごとに班分けをして調べる

###### ④当日の活動内容

###### (a) 6月の交流

時間	活動内容	子どもたちの動き
9:00～	開 会 式	1 開会宣言 韓国国際学校6年生 2 歓迎の言葉 各校長 3 テコンドー風準備運動
9:30～	遊び交流	・チームに分けて実施（10種目）
10:55～	食文化交流	・各家庭で持ち寄った具材を使ってビビンバ作り
12:15～	閉 会 式	1 記念品交換 2 代表挨拶（高添）



韓国国際学校の児童との交流の様子

(b) 11月の交流

時間	活動内容	子どもたちの動き
9:40～	開会式	1 はじめの言葉（あいさつも含めて）日本人学校児童代表 2 韓国国際学校長のあいさつ 3 日程説明
9:55～	交流活動 〈∞ノコ〉 〈発表会〉  〈ONIGIRI 体験〉	・2班合同で 2分間で跳べた数を競い、優勝チームには賞品 ・パワーポイントを使っての中国語や英語での発表 食文化、おすすめの観光地、好きなスポーツや芸能人、尊敬する人等を韓国国際学校→日本人学校の児童の順で発表 ・(一緒におにぎりを握って食べよう!) 家庭科室、教室→体育館
11:45～	閉会式	・韓国国際学校児童のあいさつ ・全員合唱「優しさに包まれたなら」を披露後「さんぽ」を一緒に歌う ・北京日本人学校長のあいさつ ・終わりの言葉 日本人学校児童代表

※ 交流の感想文を交換する。

⑤児童の学習活動と感想

1回目の交流(6/4)は、韓国国際学校へ行って、韓国の文化(遊びと食)に触れるという活動であった。韓国語で進行する中で戸惑っていると、英語や中国語、時には日本語で話しかけてくる積極的な児童を中心に共に活動することができた。日本と共通する遊びの発見や、独特の遊びに触れたり、ビビンバを一緒に作って食べたりできた。

2回目の交流(11/15)は、本校に招待し、日本の文化(遊びと食)に触れるだけでなく、相互の国について調べたことを発表し合った。相手の立場に立ってどうすればより分かりやすく伝えられるかをグループ同士で発表を聞き合い、練習を重ねて当日を迎えた。伝える言葉は中国語と英語で行った。言葉が十分身につけていない児童もいるので、なるべく映像から伝わるようにそれぞれの班で工夫したプレゼンテーションを行った。

(児童の感想から)

- ・話す言葉は全然違うけれど、とても楽しく交流できた。

- ・言葉はあまり伝わらなかったけれど、長縄を跳んだり、おにぎりを作ったりと一緒に体験したことでぐっと距離が縮まった感じがした。
- ・相手に伝えるということで、一生懸命調べてみて逆に日本の文化をよく知ることが出来た。
- ・英語や中国語や身振り手振りを使って何とかお互い伝えたいことを伝えることができて良かった。一人では無理でもみんなでやると何とかなった。
- ・言葉も大切だが、伝える気持ちも大切だと思った。
- ・韓国の人に日本の食文化を知ってもらえて嬉しかった。笑いながらおにぎりや卵焼きを食べられてよかった。

この交流によって分かったことや中国で生活していて気づいたことなどを、日本国内の学校に発信した。それが以下の実践である。

## (2) 総合的な学習の時間（佐賀県武雄市立武雄小学校6年生との交流）

### ①ねらい

- ・同じ日本人同士として交流を行い、互いの理解を深める。
- ・中国についての紹介をし、自分たちが知っていることを外へ発信する。

### ②実施計画

日時 平成26年3月7日（金）11時30分～12時15分

日本時刻 10時30分～11時15分

場所 北京日本人学校6年1組教室、武雄小学校6年教室

### ③事前と当日の活動内容

まず、お互いの教職員同士で事前の打ち合わせを「テレビ会議システム」を使って2度行った。その際に、時間はどれくらい使えるのか、どのような質問をしたいのかなどの、基本的な打ち合わせを行った。もちろん「テレビ会議システム」自体が使えるものなのかの確認も同時に行った。

そして、交流当日、最初はお互いに緊張している様子がよくわかった。しかし、日本側からの「日本語をしゃべることができますか？」の質問で、一気に場の緊張がほどけていった。そこから、「中国ではやっている漫画や歌は何か」といった質問が出たり、「中国人とのかかわりは？」といった在外に住む者にしか答えられないような質問も出たりした。そこでは、生の経験から伝えられる中国の様子や、中国で過ごす韓国人と日本人の共通点なども発信することができた。

お互いに、新鮮な発見がたくさんある交流会になった。児童の感想からも、「自分たちが経験・体験したことを伝えることができてよかった。」や「同じ日本人の交流ができてよかった。」といったものが出てきた。

## 5. 考察

### (1) 成果

- ・相手意識をきちんと持たせることで、表現方法を工夫し、相手の立場に立ってプレゼンテーションソフトにまとめることができた。【手立て1】
- ・自分たちで司会をしながら進める方法が身につき、様々な場面でその方法を活用できるようになった。【手立て2】
- ・プレゼンテーションソフトを用いて、映像メインで発信することによって、言葉の障害を乗り越え交流することができた。【手立て3・4】
- ・児童へのアンケート結果から、「相手が理解しやすいように伝え方を工夫して伝えていますか」や、「班で問題に取り組み、考えをまとめることができますか」の回答が、「どちらかというとできている。」方に傾き、児童自身に自信を持たせることができた。

## (2) 課題

- ・限られた時間の中で、交流の場を確保していきたい。【手立て1】
- ・話型に頼るだけでなく、その場に応じた話し方ができるよう、経験を積ませていきたい。【手立て2】
- ・プレゼンテーションソフトの活用力を高めさせたい。【手立て3】
- ・「書いて伝える」という段階から、「言葉で伝える」という段階へ、高めていきたい。【手立て3・4】

## 6. 最後に

北京日本人学校に赴任させてもらった初年度（2011年度）は、日中間の政治レベルの関係も穏やかであった。そのことから、中国当局も日本人相手の拠点校まで設けて、積極的な小中学生の交流を行っていた。実際、私自身も北京市内にある実験小学へ授業参観に行ったり、北京日本人学校に児童を招いたりして交流活動を行っていた。しかし、赴任2年目になって日中間の関係が悪化すると、そのような交流さえできなくなってしまった。

そのような中で、北京日本人学校の児童のためにどのような道が残されているのかを同学年の職員とともに知恵を絞って考えてきた。何が児童のためになるのか、その活動をするためには私たちは何をしないといけないのか、懸命に考え抜いて、実践に結びつけてきた。

海外で積んできたそのような経験を、今、そしてこれから向き合うであろう子どもたちに大いに還元していこうと考えている。貴重な経験をさせていただいたことに感謝して。